



東洋合成工業株式会社

- 資本金：16億1,888万円
- 設立：1954年9月
- 従業員数：887人(2024年3月末現在)
- 本社所在地：〒111-0053
東京都台東区浅草橋1-22-16
ヒューリック浅草橋ビル8階

●事業内容：

- ・液晶および有機ELディスプレイ用・半導体用として各露光波長に対応した(紫外線、KrF、ArF、EUV各世代)感光材、ポリマー製品
- ・半導体・電子材料向け高純度合成溶剤、香料向け化学品、液体化学品の保管管理・物流倉庫業

●URL：<https://www.toyogosei.co.jp/>

の製造販売へと発展した。また1970年代、半導体の黎明期から半導体製造用の感光性材料の開発を開始し、半導体製造に必須の材料として現在も成長を続けている。特に最先端半導体用の感光材では高いシェアを有しており、2020年には経済産業省から「グローバルニッチトップ企業100選」にも選出され、当社の主力事業となっている。

事業拠点は千葉県を中心に、

当社は「人類の文明の成長を支えるため、人財・創造性・科学技術を核として事業を行い、その寄与度を高めるためにも成長する」という経営理念のもと、「感光性材料、高純度溶剤、香料材料、化学品ロジスティックサービス」を主要事業としている。

大阪府、淡路市、中国・上海、オランダ・ロッテルダムに拠点を構え、グローバルな供給体制を整えている。常に移り変わる時代のニーズを先読みし、有機合成と高純度化技術に磨きをかけ、取り扱いが難しい材料を供給することで発展を遂げてきている。

この事業展開に至っては第2次世界大戦後の1954年にさかのぼる。

医薬品用化学製品のメーカーとして市川市に設立したが、戦後当時の日本は化学品の輸入の際に不純物混入が問題となっており、創業者自らが設計した蒸留塔で蒸留精製し、化成事業の基盤を築いた。その後、化学専門のロジスティックサービス(千葉県京葉地区)、合成精製技術を活かした香料原料の製造販売、リサイクル・電子材料向け超高純度溶剤



最先端半導体向け感光性材料世界シェア7割を支える主力工場「千葉工場」



スマートフォンの性能を決める半導体やディスプレイに必須の材料「感光性材料」

MESSAGE

人類文明の成長を目指し
当社が作れないものを作る

社長

木村有仁
きむら ゆうじん



当社は2024年、創立70周年を迎えました。さらなるイノベーションが必要とされる未来に向け、創業者が志した「今が形が現れざる、見えざるものへの挑戦」を日々続け、他者ができないことに挑戦し、未来を創るといふ、創業精神の実現に注力しています。

当社が開発し、提供する先端半導体向け感光材は半導体に必須の材料であり、高純度溶剤とともに、AIなどの半導体産業の成長を支えています。必要とされる新技術の開発や新規事業開発を進め、創業以来の「ベンチャー精神」で未来へ挑戦し、供給拡大によって企業価値向上に努めてまいります。経団連会員の皆さまには、今後ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。